ISSN 2189-4787

浦幌町立博物館

紀要

第17号

『浦幌町郷土博物館報告』創刊号～第45号
（1972～1996）継続

BULLETIN OF THE HISTORICAL MUSEUM OF URAHORO

目　次

荒　川　和　子：浦幌町立博物館所蔵の2016年度採集の蝶標本 …… 1

円　子　紳　一：浦幌のウチダザリガニ駆除（2016年） …… 9

岸本祐樹・髙橋慎二・大原昌宏・佐藤喜和：
北海道東部浦幌地域におけるヒグマが採食するアリ類以外の昆虫類 …… 13

持田　誠・持田直也：吉田康登氏採集の植物標本（２） …… 19

三浦直春　解読：〔資料紹介〕大正十五年･昭和元年　教育雑件　浦幌村役場（その2） … 27

2017
3

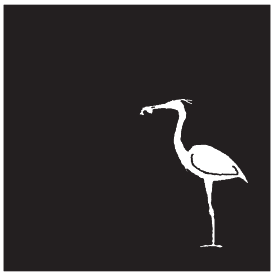
北　海　道
浦　幌　町　立　博　物　館

ISSN 2189-4787

浦幌町立博物館

紀要

第17号



『浦幌町郷土博物館報告』創刊号～第45号
（1972～1996）継続

BULLETIN OF THE HISTORICAL MUSEUM OF URAHORO

2017
3

北海道
浦幌町立博物館

浦幌町立博物館所蔵の 2016 年度採集の蝶標本

荒川 和子 [1)]

Kazuko Arakawa, 2017. Butterfly 2016 collection of The Hisotorical Museum of Urahoro.
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 17: 1-7.

整理番号	受入番号	点数	計測値	採集地	採集年月日	採集者
アゲハチョウ科　Papilionidae						
キアゲハ　*Papilio machaon*　LINNAEUS, 1758						
1299	2017-17	1	90	北海道十勝郡浦幌町南町	2016.8.12	荒川和子
シロチョウ科　Pieridac						
モンキチョウ　*Colias erate*　(ESPER, 1805)						
1300	2017- 1	1	46	北海道十勝郡浦幌町東山	2016.5.28	荒川和子
1301	2017- 2	1	47	北海道十勝郡浦幌町東山	2016.8. 6	荒川和子
1302	2017- 3	5	34～48	北海道十勝郡浦幌町常豊	2016.9.10	荒川和子
1303	2017- 4	9	40～49	北海道十勝郡浦幌町常豊	2016.9.17	荒川和子
1304	2017- 5	1	44	北海道十勝郡浦幌町常豊	2016.9.19	荒川和子
1305	2017- 6	3	39～43	北海道十勝郡浦幌町常豊	2016.9.24	荒川和子
1306	2017- 7	2	37～46	北海道十勝郡浦幌町厚内	2016.10.1	荒川和子
1307	2017- 8	1	44	北海道十勝郡浦幌町十勝太	2016.10.1	荒川和子
エゾスジグロシロチョウ　*Pieris dulcinea*　(BUTIER, 1882)						
1308	2017- 9	1	46	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7. 9	荒川和子
1309	2017- 10	1	50	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7.21	荒川和子
1310	2017- 11	1	49	北海道十勝郡浦幌町東山	2016.7.21	荒川和子
1311	2017- 12	1	49	北海道十勝郡浦幌町東山	2016.8. 6	荒川和子
スジグロシロチョウ　*Pieris melete*　(MÉNÉTRIÈS, 1857)						
1312	2017- 13	1	41	北海道十勝郡浦幌町常豊	2016.9.10	荒川和子
エゾヒメシロチョウ（♂）　*Leptidea morsei*　(FENTON, 1882)						
1313	2017-14	1	40	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.5.28	荒川和子
1314	2017-15	1	47	北海道十勝郡浦幌町東山	2016.8. 6	荒川和子
ツマキチョウ（♀）　*Anthocharis scolymus*　BUTLER, 1866						
1315	2017-16	1	50	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.5.28	荒川和子
セセリチョウ科　Hesperiidae						
コチャバネセセリ　*Thoressa varia*　(MURRAY, 1875)						
1316	2017- 19	1	29	北海道十勝郡浦幌町東山	2016.6.27	荒川和子
1317	2017- 20	1	27	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.6.27	荒川和子
1318	2017- 21	1	29	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7. 1	荒川和子
1319	2017- 22	1	29	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7. 9	荒川和子
1320	2017- 23	1	29	北海道十勝郡浦幌町東山	2016.7.21	荒川和子
オオチャバネセセリ　*Polytremis pellucida*　(MURRAY, 1875)						
1321	2017- 18	1	31	北海道十勝郡浦幌町南町	2016.7.21	荒川和子

1) 〒089-5617　北海道十勝郡浦幌町字南町

整理番号	受入番号	点数	計測値	採集地	採集年月日	採集者
イチモンジセセリ　*Parnara guttata*　(BREMER & GREY,1852)						
1322	2017- 24	1	37	北海道十勝郡浦幌町常豊	2016.9.10	荒川和子
チャマダラセセリ　*Pyrgus maculatus* (BREMER & Grey,1852)						
1323	2017- 25	1	23	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.6. 6	荒川和子
キバネセセリ　*Burara aquilina*　(SPEYER,1879)						
1324	2017- 26	1	38	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7.21	荒川和子
タテハチョウ科　Nymphalidae						
ウラギンヒョウモン　*Fabriciana adippe*　([DENIS & SCHIFFERMÜIIER],1775)						
1325	2017- 27	2	51～52	北海道十勝郡浦幌町平和塔	2016.7.21	荒川和子
1326	2017- 28	1	57	北海道十勝郡浦幌町万年	2016.7.21	荒川和子
ウラギンスジヒョウモン　*Argyonome laodice*　(PALLAS,1771)						
1327	2017- 34	1	57	北海道十勝郡浦幌町常豊	2016.9.24	荒川和子
ギンボシヒョウモン　*Speyeria aglaja*　(LINNAEUS,1758)						
1328	2017- 29	2	51～56	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.6.27	荒川和子
1329	2017- 30	2	52～55	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7. 1	荒川和子
1330	2017- 31	2	52～54	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7. 9	荒川和子
1331	2017- 32	1	62	北海道十勝郡浦幌町東山	2016.7. 9	荒川和子
1332	2017- 33	4	50～67	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7.21	荒川和子
アカタテハ　*Vanessa indica*　(HERBST,1794)						
1333	2017- 35	1	60	北海道十勝郡浦幌町南町	2016.9.11	荒川和子
クジャクチョウ　*Inachis io*　(LINNAEUS,1758)						
1334	2017- 36	1	48	北海道十勝郡浦幌町南町	2016.8. 6	荒川和子
1335	2017- 37	1	51	北海道十勝郡浦幌町南町	2016.9.17	荒川和子
1336	2017- 38	3	50～67	北海道十勝郡浦幌町南町	2016.9.24	荒川和子
1337	2017- 39	1	48	北海道十勝郡浦幌町南町	2016.10.1	荒川和子
アカマダラ　*Araschnia levana*　(LINNAEUS,1758)						
1338	2017- 40	1	31	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.5.26	荒川和子
1339	2017- 41	1	29	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.6. 6	荒川和子
1340	2017- 42	2	37	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7.21	荒川和子
フタスジチョウ　*Neptis rivularis*　(SCOPOLI,1763)						
1341	2017- 43	1	43	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7. 1	荒川和子
サトキマダラヒカゲ　*Neope goschkevitschii*　(MÉNÉTRIÉS,1857)						
1342	2017- 44	2	55～62	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.6.27	荒川和子
1343	2017- 45	1	57	北海道十勝郡浦幌町平和塔	2016.6.27	荒川和子
1344	2017- 47	1	57	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7. 9	荒川和子
ヤマキマダラヒカゲ　*Neope niponica*　BUTLER,1881						
1345	2017- 46	1	56	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7. 1	荒川和子
1346	2017- 48	1	56	北海道十勝郡浦幌町平和塔	2016.7.21	荒川和子
ヒメウラナミジャノメ　*Ypthima argus*　BUTLER,1866						

整理番号	受入番号	点数	計測値	採集地	採集年月日	採集者
1347	2017- 49	1	36	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2015.6.27	荒川和子
1348	2017- 50	1	36	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7. 1	荒川和子
1349	2017- 51	1	35	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7. 9	荒川和子
1350	2017- 52	1	36	北海道十勝郡浦幌町東山	2016.7. 9	荒川和子
シロオビヒメヒカゲ　*Coenonympha hero*　(LINNAEUS, 1761)						
1351	2017- 53	1	32	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.6. 6	荒川和子
クロヒカゲ　*Lethe diana*　(BUTLER, 1866)						
1352	2017- 54	2	44～47	北海道十勝郡浦幌町平和塔	2016.7.21	荒川和子
シジミチョウ科　Lycaenidae						
ベニシジミ　*Lycaena phlaeas*　(LINNAEUS, 1761)						
1353	2017- 55	1	29	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.6. 6	荒川和子
ツバメシジミ　*Everes argiades*　(PALLAS, 1771)						
1354	2017- 56	1	23	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.5.28	荒川和子
1355	2017- 57	1	23	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.6. 6	荒川和子
1356	2017- 58	1	21	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.6.27	荒川和子
1357	2017- 59	1	24	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2016.7. 1	荒川和子

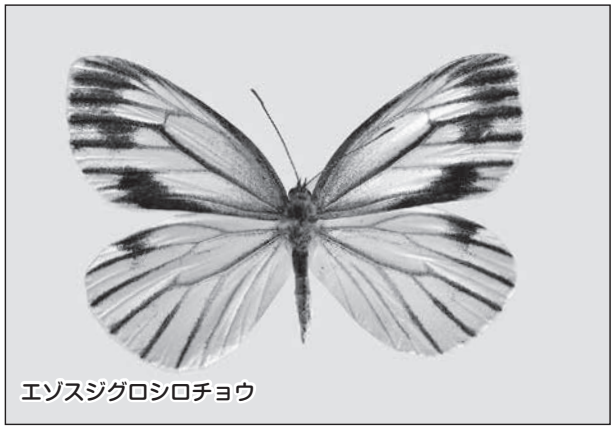
参　考　文　献

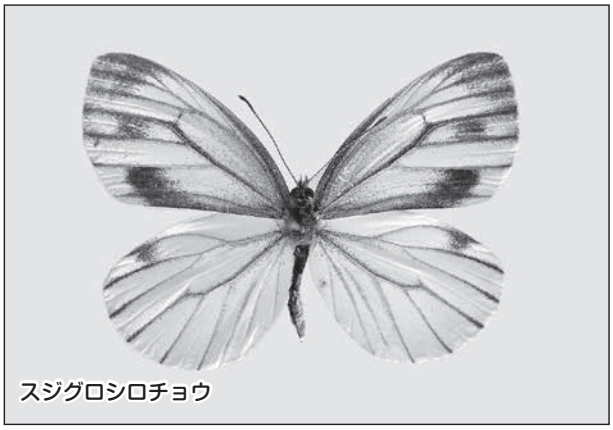
志村　隆. 2007. 日本産蝶類標準図鑑. 336pp. 学習研究社, 東京.

堀繁久・桜井正俊. 2015. 昆虫図鑑北海道の蝶と蛾. 422pp. 北海道新聞社, 札幌.

キアゲハ

モンキチョウ


エゾスジグロシロチョウ


スジグロシロチョウ

エゾヒメシロチョウ

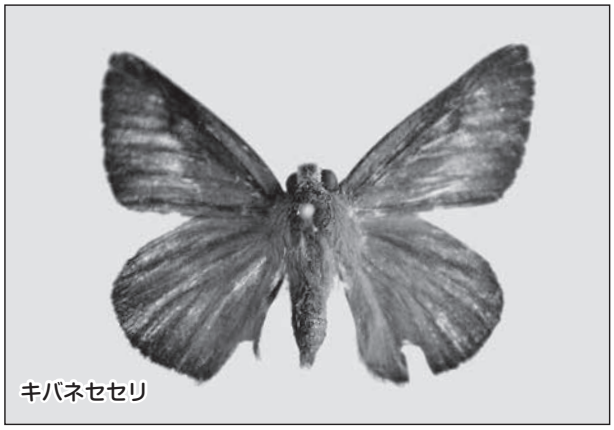
ツマキチョウ

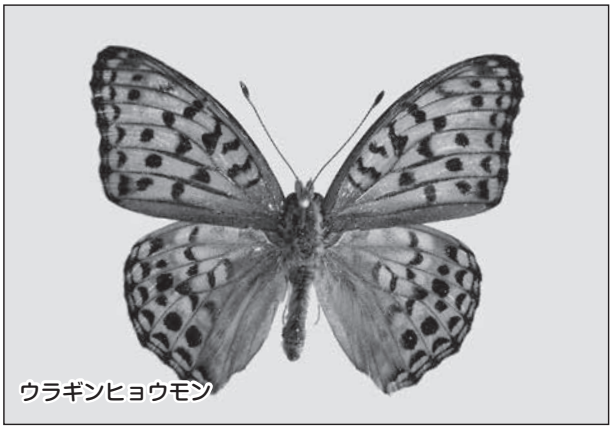
コチャバネセセリ

オオチャバネセセリ

イチモンジセセリ

チャマダラセセリ


キバネセセリ


ウラギンヒョウモン

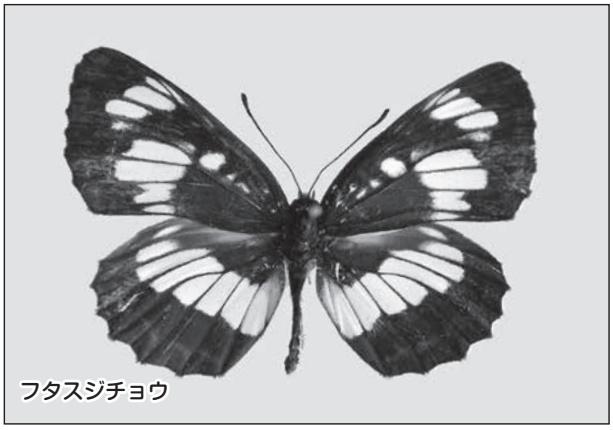
ウラギンスジヒョウモン

ギンボシヒョウモン

アカタテハ

クジャクチョウ

アカマダラ


フタスジチョウ

サトキマダラヒカゲ

ヤマキマダラヒカゲ

ヒメウラナミジャノメ

シロオビヒメヒカゲ

クロヒカゲ

ベニシジミ

ツバメシジミ

浦幌のウチダザリガニ駆除（2016 年）

円子紳一 [1)]

Shinichi Maruko, 2017. The extermination of *Pacifastacus luniusculus trowbridgii* in Urahoro, eastern Hokkaido, 2016.
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 17: 9-11.

はじめに

浦幌町でのウチダザリガニ駆除は、2015 年から「浦幌の自然を楽しむ会」が取り組んでいる。

2015 年は環境省北海道地方環境事務所から防除に係る認定を受け、調査区域である浦幌川（第 1 浦幌橋～万統橋）、支流のオベトン川（浦幌川合流点～国道 38 号）とその上流で１１１匹が駆除された。詳しくは本紀要第 16 号「浦幌で初めてのウチダザリガニ駆除」（円子 2016）を参照されたい。

2016 年 7 月 30 日の「ウチダザリガニバスターズ」では小学生 9 人と保護者 4 人の参加を得て、北海道ウチダザリガニ防除ネットワークの高橋克巳代表からウチダザリガニの説明を受けオベトン川で捕獲体験、試食を行った。9 月 8 日には 15 年に続いて酪農学園大学野生動物保全技術実習を同川で行い捕獲と計測体験が行なわれた。

調査区域の拡大と分布の確認

2015 年の駆除で調査区域（上記参照）全域に生息が確認されたことから、浦幌町全域を調査区域として変更申請をして認定を受けた。

あわせて、北海道内水面漁業調整規則に基づく内水面採捕の許可を、浦幌町全域として得た。

2016 年の調査では、地域住民から寄せられた情報をもとに、浦幌川と常室川の合流点でも生息を確認した。オベトン川では昨年より上流の山蔭橋までの生息が確認された。

調査・駆除結果

浦幌川は 5 月融雪水、6 月長雨、8 月は 4 個の台風襲来などにより増水状態が続き、たも網で 7 月 17 日、カニカゴで 10 月 18 日、26 日の 3 回しか駆除出来なかった。

オベトン川（浦幌川支流）では、7 月 30 日～ 11 月 2 日までの間に 13 回駆除した。たも網で 12 回、カニカゴ併用で 1 回である。駆除の内訳は表 1 の通り。

カニカゴの目合いが 1.5㎝であるのに対して、たも網の網目は 3㎜と狭小なことから、当年生まれと思われる小型のサイズが多く捕獲された。結果として表 2 の通り 15 年に比べて雌雄とも全長・体重で小さな数値となった。

7 月 17 日に行った浦幌川と常室川の合流地点では 10 匹を捕獲。上流域への分布拡大が確認された。翌 18 日に浦幌川の第四浦幌橋（留真）～留真川の留真橋間で、たも網による捕獲を試みたが生息は確認できなかった。

今後の調査・駆除

2016 年の駆除は、浦幌川の増水によりオベトン川に集中したが、同川流域には以前からニホンザリガニの生息が知られて、餌の略奪などウチダザリガニとの競合が心配される。11 月 19 日に川湯エコミュージアムセンターで開かれた「外来ざりがにサミット in 屈斜路」で、捕獲圧が高い場所では生息数の減少が見られるとの報告もあり、今後も集中した捕獲が必要と考える。

第 1 浦幌橋より上流の常室地区で生息を確認したが、どこまで遡上しているのか、支流ではどうなっているのか。浦幌川の万統橋（万年と統太の境界）より下流や接続河川、沼ではどうなっているのか。昆布刈石より東の河川はどんな状況か。心配が尽きないが少しずつ調査したいと考えている。

1) 浦幌の自然を楽しむ会　〒 089-5634　北海道十勝郡浦幌町字帯富

表1　2016年のウチダザリガニ駆除内訳

回数	月　日	河川名	区　　域	性別	頭数	全　長　㎜		体　重　g		備　考
						最大	最少	最大	最少	
1	7月17日	浦幌川	常室川との合流	♂	3	103.95	54.26	52.26	3.65	
				♀	7	102.52	48.87	32.94	3.91	
				計	10					
2	7月30日	オベトン川	茂帯富川との合流点から両上流	♂	5	116.26		82.86		ウチダザリガニバスターズ
				♀	23	82.86		24.00		計測は♂♀各1匹
				不明	9					
				計	37					
3	8月 4日	同上	元富橋～山蔭橋	不明	1					
				計	1					
4	9月 8日	同上	茂帯富川との合流点から両上流	♂	9	95.44	28.07	33.80	0.77	酪農学園大学動物保全技術実習
				♀	22	112.37	26.20	43.59	0.56	
				不明	2	14.21	12.93	0.06		
				計	33					
5	9月17日	同上	同上	♂	5	116.17	54.43	75.38	4.90	
				♀	8	119.96	32.71	68.44	0.90	
				不明	3	14.11	11.96	0.08	0.06	
				計	16					
6	9月20日	同上	同上	♂	9	112.43	77.79	70.69	16.42	
				♀	7	93.34	83.14	25.30	17.28	
				計	16					
7	9月27日	同上	同上	♂	6	109.76	83.32	60.73	19.71	
				♀	3	100.83	83.46	29.49	17.93	
				計	9					
8	10月 6日	同上	同上	♂	1	100.42		33.67		
				♀	6	94.65	48.12	26.24	3.24	
				不明	2	34.12	32.55	1.80	0.85	
				計	9					
9	10月10日	同上	同上	♂	5	98.28	36.91	40.08	1.02	
				♀	7	49.88	31.04	3.30	0.81	
				不明	6	17.73	16.43	0.12	0.08	
				計	18					
10	10月18日	浦幌川	森永落差工	♂	2	103.99	89.18	44.02	23.77	
				♀	1	95.10		32.93		抱卵
			塩村落差工	♂	1	107.99		48.68		
		オベトン川	茂帯富川との合流点から両上流	♂	6	100.14	39.33	32.45	1.49	
				♀	7	66.05	35.43	9.02	1.04	
				不明	7	28.09	15.26	0.49	0.07	
				計	24					
11	10月26日	浦幌川	塩村落差工	♂	1	102.16		41.00		
		オベトン川	帯富橋～北栄橋	♂	1	53.14		3.82		
				不明	6	22.71	18.58	0.25	0.15	
				計	8					
12	10月29日	オベトン川	茂帯富川との合流点から両上流	♀	2	54.60	33.94	4.41	1.14	
				計	2					
13	10月31日	同上	同上	♂	6	53.17	32.86	6.11	1.28	
				♀	8	78.93	33.30	15.92	0.95	
				計	14					
14	11月 2日	同上	北栄橋落差工の上流	♀	1	44.90		2.40		
				不明	2	18.95	18.37	0.15	0.13	
				計	3					
合計				♂	60	116.26	28.07	75.38	0.77	
				♀	103	119.96	14.21	68.44	0.56	
				不明	37	34.12	11.96	1.80	0.06	
				計	200					

表 2　2015 年と 2016 年の全長と体重の比較

雌雄	年	個体数	全長　㎜		体重　g	
			最大	最少	最大	最少
♂	2015	37	121.00	60.00	97.00	7.00
	2016	60	116.26	28.07	75.38	0.77
♀	2015	35	129.00	58.00	76.00	8.00
	2016	80	119.96	14.21	68.44	0.56
不明	2015	2	112.00	104.00	60.00	56.00
	2016	27	34.12	11.96	1.80	0.06
総体	2015	74	129.00	58.00	97.00	7.00
	2016	167	119.96	11.96	75.38	0.06

数値は全長・体重の両方を測定した個体による。
2016 年は小数点 2 桁表示のデジタルノギス、秤を使用した。

これからのウチダザリガニとの付き合い

ウチダザリガニは人間の都合で日本に持ち込まれ、北海道では各地に生息域を拡大し、さまざまなあつれきを生じている。今や根絶は難しい状況だが、いかに生息密度を低下させ在来生物への影響を軽減させるかが大切になってくる。

また、特定外来生物や生物多様性については、新聞報道されているが一般的にはまだまだ認知度が低いと思われる。外来生物の問題点や生物の命の大切さなどを通して自然界の生物多様性を伝えることも必要になっている。「ウチダザリガニバスターズ」など子どもたちへの啓もう活動も引き続き取り組む課題だ。

そんな中でやみくもに駆除だけを追い続けるのは、現状では徒労感が増して活動の停滞につながりかねない。時には楽しみながらの試食、新しい捕獲方法や利用方法を考えることで息の長い活動に結び付けたいと考えている。

おわりに

駆除活動の中心となっている「浦幌の自然を楽しむ会」のみなさん、町立博物館の持田誠学芸員、北海道ウチダザリガニ防除ネットワークの高橋克巳代表、齊藤さゆりさん、「ウチダザリガニバスターズ」に参加いただいたみなさん、野生動物保全技術実習を行った酪農学園大学の佐藤喜和教授や学生のみなさんに心から感謝申し上げる。

なお、本調査・駆除経費の多くは、浦幌町の「笑顔輝く地域づくり支援事業」の補助金を得て行われたものである。

参考文献

山田昌義・鏡坦・丸山まさみ・川井唯史 . 2015. 十勝における外来種ウチダザリガニの現状と対策（総説）. 帯広百年記念館紀要 . 33: 17-31.

円子紳一 . 2016. 浦幌で初めてのウチダザリガニ駆除 . 浦幌町立博物館紀要 . 16: 9-13.

北海道東部浦幌地域におけるヒグマが採食するアリ類以外の昆虫類

岸本祐樹 [1)]・髙橋慎二 [1)]・大原昌宏 [2)]・佐藤喜和 [3)]

Yuki Kishimoto, Shinji Takahashi, Masahiro Ohara & Yoshikazu Sato. 2017.
Entomophagy by brown bears in the Urahoro region, eastern Hokkaido, Japan.
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 17: 13-18.

摘　要

北海道東部浦幌地域において採集されたヒグマの糞 631 個を用いて、ヒグマに採食された昆虫類 (アリ類を除く) の同定を行った。220 個 (35%) の糞から、4 目 11 科 7 属 11 種が確認された。鞘翅目センチコガネ科、クワガタムシ科の出現頻度が高く、次いで膜翅目スズメバチ科とマルハナバチ科が多かった。採食される季節は晩夏に最も多く、次いで秋が多かった。センチコガネ科は北海道では比較的個体数が多く、林道のような開けた場所を徘徊し、またヒグマやタヌキなどの糞塊に集合することがあるため、そうした機会に採食されている可能性が考えられた。

はじめに

北海道に生息するヒグマ *Ursus arctos* の食性は、春から夏にかけて草本類、初夏から晩夏にかけて昆虫類、秋には果実類を利用する雑食性である (佐藤 2011)。1990 年代以降は、晩夏に農作物が多く利用されており、これが人間との軋轢の大きな原因となっている (Sato et al. 2005)。また北海道東部のヒグマの特徴として、1990 年代後半以降に急激に生息数を増加させたエゾシカ *Cervus nippon yesoensis* を、年間を通じて利用するようになったことがあげられる (Sato et al. 2004)。

エゾシカを除くと、北海道のヒグマが利用する動物質としての食物は、主にアリ類 Formicidae やハチ類 Vespidae の社会性昆虫類である (佐藤 2006)。このうちアリ類に関しては、国内外で様々な研究がなされているが (北海道：Onoyama 1998; 青木 2007; 菱山 2008; 矢野、2010; 小林・佐藤 2012; 伊藤 2017、海外：Swenson et al. 1999; Mattson et al. 2001; Große et al. 2003)、アリ類以外の昆虫類については、いくつか断片的な報告があるだけで、詳しい研究はなされていない (門崎・犬飼 2000；大原 2006)。

そこで本研究では、ヒグマが利用する動物質資源として、アリ類を除きどのような昆虫を採食しているのかを明らかにすることを目的とし、1999 年～ 2007 年に、北海道東部浦幌地域において採集された計 631 個の糞試料を用いて、採食された昆虫類の選別、同定を行った。

調査地

北海道十勝郡浦幌町、釧路市音別町、および白糠郡白糠町に位置する十勝総合振興局森林室管内の道有林内 (面積 43,139ha、以下、浦幌地域とする) にて行った。調査地内の標高は 600m 以下で、植生はミズナラ *Quercus crispula*、シナノキ *Tilia japonica*、イタヤカエデ *Acer pictum* などの天然林が優占し、人工林ではトドマツ *Abies sachaliensis*、カラマツ *Larix kaempferi* が優占している。

試料と方法

1999 年から 2007 年の 4―11 月にかけて調査地内を踏査または走査し、ヒグマの糞の発見に努めた。発見した糞は、発見地点、推定される排泄時期、主な内容物、混入物、周辺環境を記録し、全量回収した後、定量分析まで冷凍保存した。糞試料は、Sato et al. (2000) によるポイント枠法で内容物を定量分析し

1) 日本大学生物資源科学部　〒 252-0880　神奈川県藤沢市亀井野 1866
2) 北海道大学総合博物館　〒 060-0810　北海道札幌市北区北 10 条西 8 丁目
3) 酪農学園大学　〒 069-8501　北海道江別市文京台緑町 582-1, yoshikazu.sato2010@gmail.com

た後、75% エタノール中で液侵保存した。調査地における試料の回収および記録は、日本大学生物資源科学部森林資源科学科森林動物学研究室、北海道大学ヒグマ研究グループ、および浦幌ヒグマ調査会の諸氏の協力によった。

液侵標本となっている糞試料を用いて、中に含まれるアリ類以外の昆虫類の選別を行った。糞をバットに広げ、ピンセットを用いて巨視的に昆虫を採取した。採取した昆虫は、75% エタノールを用いて液侵標本とした。糞試料中には、ヒグマに採食された昆虫の他、ヒグマの糞に集まった昆虫も含まれている場合がある。本研究においては、糞試料中で形状がばらばらである昆虫をヒグマに採食された昆虫として分析対象とした。

採食された昆虫の同定には、双眼実体顕微鏡 (Olympus 社製、SZX9)、およびそのカメラユニット (Nikon 社製、DS-Fi1) を用いて撮影し、同定を行った。また、原色日本昆虫図鑑 (II)(上野ら 1985)、日本産コガネムシ上科図説 (川井ら、2005) も参考に用いた。

糞試料の回収時点で推定された排泄時期に基づき、４月～５月を春、６月～７月を初夏、８月～９月を晩夏、10 月～ 11 月を秋として、確認された昆虫を季節別にまとめた。

結　　果

浦幌地域のヒグマが採食している昆虫の種類

1999 年に 40 個、2000 年に 48 個、2001 年に 13 個、2002 年に 23 個、2003 年に 16 個、2004 年に 36 個、2005 年に 153 個、2006 年に 225 個、2007 年に 77 個、計 631 個の糞試料をもとに、中に含まれるアリ類以外の昆虫を探した。その結果、220 個 (35%) の糞試料からアリ類以外の昆虫が確認された。その内訳は、1999 年 14 個、2000 年 18 個、2001 年 1 個、2002 年 10 個、2003 年 7 個、2004 年 13 個、2005 年 80 個、2006 年に 34 個、2007 年に 43 個だった。

表1. 浦幌地域にて採集されたヒグマの糞中から採取されたヒグマが採食した昆虫類(アリ類を除く), 2000— 2007年, N=220.

目名	科名	亜科名	属名	種名
半翅目 Hemiptera	セミ科 Cicadidae			
鞘翅目 Coleoptera	オサムシ科 Carabidae			
	シデムシ科 Silphidae	ヒラタシデムシ族 Silphini		
	センチコガネ科 Geotrupidae	センチコガネ亜科 Geotrupinae	オオセンチコガネ属 *Phelotrupes*	オオセンチコガネ *Phelotrupes auratus auratus*
				センチコガネ *Phelotrupes laevistriatus*
	クワガタムシ科 Lucanidae	クワガタムシ亜科 Lucaninae	ミヤマクワガタ属 *Lucanus*	ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus*
	コガネムシ科 Scarabaeidae	ハナムグリ亜科 Cetoniinae	カナブン属 *Rhomborrhina*	アオカナブン *Rhomborrhina unicolor*
	カミキリムシ科 Cerambycidae	ノコギリカミキリ亜科 Prioninae	ノコギリカミキリ属 *Prionus*	ノコギリカミキリ *Prionus insularis*
双翅目 Diptera	アブ科 Tabanidae	キンメアブ亜科 Chrysopsinae		キンメアブ(旧メクラアブ) *Chrysops suavis*
	ハナアブ科 Syrphidae			サッポロヒゲナガハナアブ *Chrysotoxum sapporense*
膜翅目 Hymenoptera	ミツバチ科 Apidae	マルハナバチ亜科 Bombinae	マルハナバチ属 *Bombus*	
	スズメバチ科 Vespidae	スズメバチ亜科 Vespinae	スズメバチ属 *Vespa*	エゾキイロスズメバチ(旧ケブカスズメバチ) *Vespa simillima simillima*
				コガタスズメバチ *Vespa analis insularis*
			クロスズメバチ属 *Vespula*	クロスズメバチ *Vespula flaviceps lewisii*
				シダクロスズメバチ *Vespula shidai shidai*

確認された昆虫は、セミ科 Cicadidae、オサムシ科、シデムシ科、センチコガネ科 Geotrupidae オオセンチコガネ *Phelotrupes auratus auratus*、センチコガネ *Phelotrupes laevistriatus*、クワガタムシ科 ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus*、コガネムシ科 Scarabaeidae アオカナブン *Rhomborrhina unicolor*、カミキリムシ科 Cerambycidae ノコギリカミキリ *Prionus insularis*、アブ科 Tabanidae キンメアブ *Chrysops suavis*、ハナアブ科 Syrphidae サッポロヒゲナガハナアブ *Chrysotoxum sapporense*、ミツバチ科 Apidae マルハナバチ属 *Bombus*、スズメバチ科 Vespidae スズメバチ属 *Vespa* エゾキイロスズメバチ *Vespa simillima simillima*、コガタスズメバチ *Vespa analis insularis*、クロスズメバチ属 *Vespula* クロスズメバチ *Vespula flaviceps lewisii*、シダクロスズメバチ *Vespula shidai shidai* の 4 目 11 科 7 属 11 種だった (表 1)。センチコガネ科は、形状がばらばらであるため、オオセンチコガネ、センチコガネの区別が困難であり、全ての試料について種まで同定することは出来なかったが、採取したサンプルのほとんどの色彩が金赤、金緑と華やかであることから、オオセンチコガネを頻繁に採食しているものと思われる。また、頭部が確認できた 5 つのサンプルにおいては、すべてセンチコガネであった。クワガタムシ科は、ミヤマクワガタを頻繁に採食していることが分かったが、他種も採食していた。ミヤマクワガタ以外の他種の同定は、サンプルの形状がばらばらであるため、種まで同定することは出来なかった。ミツバチ科、スズメバチ科のハチ類は、マルハナバチ属、スズメバチ属、クロスズメバチ属の 3 属 4 種が確認できた。また、その他の膜翅目も採食されていたが、種の同定までいたらなかった。シデムシ科は、ヒラタシデムシ族のみ採食されていた。アブ科は、キンメアブが確認できたが、他種も採食されていた。オサムシ科は、すべてのサンプルを種まで同定することはできなかった。その他、サッポロヒゲナガハナアブ、ノコギリカミキリ、アオカナブンの採食が確認できた。

本研究により、浦幌地域のヒグマが採食し同定できた昆虫の目ごとの出現頻度割合を図 1 に、科 (一部属) ごとの出現頻度割合を図 2 に示した。採食された昆虫の目レベルでみた出現頻度割合は、鞘翅目 78.6%、膜翅目 34.1%、双翅目 1.8%、半翅目 0.5%、不明 1.8% で、鞘翅目が最も多かった (図 1)。科 (一部属) 別の出現頻度割合では、鞘翅目センチコガネ科 (52.3%)、クワガタムシ科 (44.1%)、オサムシ科 (3.6%)、コガネムシ科カナブン属アオカナブン (1.8%)、シデムシ科ヒラタシデムシ族 (1.8%)、カミキリムシ科ノコギリカミキリ属ノコギリカミキリ (0.5%)、膜翅目スズメバチ科クロスズメバチ属 (14.1%)、ミツバチ科マルハナバチ属 (12.7%)、スズメバチ科スズメバチ属 (3.6%)、双翅目アブ科 (1.4%)、ハナアブ科 (0.5%)、半翅目セミ科 (0.5%) であった (図 2)。センチコガネ科とクワガタムシ科の出現頻度割合が高く、次いでスズメバチ科クロスズメバチ属、ミツバチ科マルハナバチ属、スズメバチ科スズメバチ属が多く出現した。

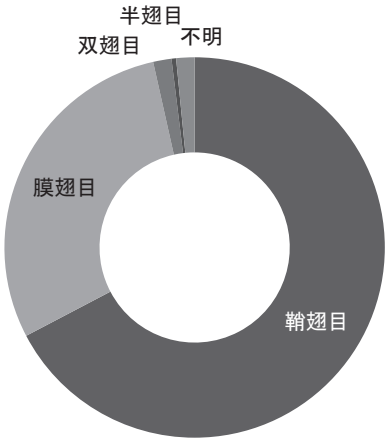


図1. ヒグマの糞中に確認されたヒグマが採食した昆虫の目別出現頻度割合, 北海道東部浦幌地域, 1999—2007年, N=220.

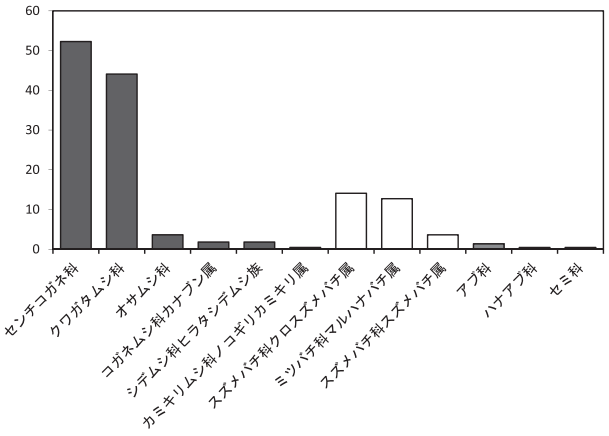


図2　ヒグマの糞中に確認されたヒグマが採食した昆虫の科（属）別出現頻度割合, 北海道東部浦幌地域, 1999—2007年, N=220.

浦幌地域のヒグマが昆虫を採食する季節

採集された計 631 個の糞試料を季節ごとにわけると、春は 57 個、初夏は 184 個、晩夏は 243 個、秋は 147 個であった。昆虫が採食された計 220 個の糞試料のうち、春に採食された糞試料は無く (0%)、初夏に 42 個 (22.8%)、晩夏に 127 個 (52.3%)、秋に 51 個 (34.7%) であった。最も採食頻度が高かった季節は晩夏であり、ついで秋であった。

考　察

門崎・犬飼 (2000) は、ヒグマが採食している昆虫は、アリ類とハチ類が主体であり、他に十数種類の昆虫の幼虫だけと報告している。他にもヒグマが採食する昆虫は、主にアリ類、ハチ類を主体とするという報告が多かった (Aoi 1985; Ohdachi & Aoi 1987; 山中・青井 1988; Sato et al. 2004; 2005)。しかし、本研究では４目 11 科 7 属 11 種の昆虫が確認され、いずれも成虫を採食していた。これらの利用実態は初めて記載される物が多かった。また、未同定ではあるが、本研究においても昆虫の幼虫も採食されていた。セミ科、オサムシ科、シデムシ科、コガネムシ科、カミキリムシ科、アブ科、ハナアブ科は採食頻度が非常に低く、浦幌地域のヒグマが選択的に採食したと断定することは難しいが、センチコガネ科、クワガタムシ科、ミツバチ科マルハナバチ属、スズメバチ科スズメバチ属およびクロスズメバチ属は高い割合で採食されていることから、選択的にこれらの昆虫を採食していると考えられた。大原 (2006) は、ヒグマの食物となる昆虫の特徴として、①社会性昆虫で巣をつくり、一度に大量の個体数が手に入る昆虫 (ハチ類、アリ類)、②個体サイズが大きく、複数個体が同じ環境に生息している昆虫 (クワガタムシ類) などにまとめている。本研究においても社会性昆虫のアリ類、ハチ類、個体サイズの大きいクワガタムシ科は、頻繁に採食されており、大原 (2006) のまとめを支持した。

一方、センチコガネ科は、アリ類、ハチ類のように社会性でコロニーをつくることはなく、またクワガタムシのように個体サイズは大きくない。調査地内を踏査中に見つけたタヌキ *Nyctereutes procyonoides* の糞中にもセンチコガネ科の昆虫が頻繁に含まれているのが観察された。浦幌地域のヒグマが、どのようにセンチコガネ科昆虫を頻繁に採食しているのかは不明であるが、センチコガネ科とシデムシ科（ヒラタシデムシ族）は北海道においては極めて個体数が多く (例えば保田・佐藤 1992; 保田 1992; 大原 1995)、林道などやや開けた場所を頻繁に徘徊している個体が多いことから、哺乳類にとっては利用しやすい食資源と考えられる。センチコガネ科およびアオカナブンは色彩が華やかな特徴であるため、このような昆虫の目立つ体色も関係しているかもしれない。また、センチコガネ科は食糞性の昆虫であり、実際調査地内でもヒグマの糞やタヌキの溜糞のような大型の糞塊には複数個体が集まっていることが観察されている。このように複数個体が集合しているところを採食することで効率的な採食を行っている可能性も考えられる。

アリ類やハチ類以外の昆虫類利用に関して、北米に生息するグリズリー (北海道に生息するヒグマと同種) では、高山帯に集合する鱗翅目 Lepidoptera ヤガ科 Noctuidae の *Euxoa auxiliaris* を採食することが知られており、夏から初秋にかけての重要な採食資源となっていると考えられている (Mattson et al. 1991; White et al. 1998)。また北海道でもクワガタムシ科の幼虫を利用すること (門崎・犬飼 2000)、カラマツ植林地の林床にてエゾハルゼミ *Terpnosia nigricosta* またはコエゾゼミ *Lyristes bihamatus* の幼虫を掘り返して食べること (桑原ほか 2001)、大雪山の高山帯にてアムールトビケラ *Asynarchus amurensis* の幼虫を食べているという報告がある (門崎・犬飼 2000)。これらの鱗翅目昆虫や鞘翅目・半翅目・毛翅目の幼虫採食に関しては、本研究からは確認されなかった。特に幼虫については、消化されてしまい糞分析では確認しにくい可能性がある。

本件研究は、これまで断片的な記載に留まっていたヒグマによるアリ類以外の昆虫利用について、長期間にわたり採取された多数の糞分析結果から、未記載の種を含む利用実態を明らかにした。利用量は小さく、ヒグマの生活にとって不可欠な採食資源とは言えないが、このような昆虫類利用の実態を明らかにしていくことは、ヒグマの環境利用や他種生物との相互作用を理解する上でも重要な情報である。今後他地域でも同様の情報の蓄積が望まれる。

謝　辞

本報告は、岸本（2009）および髙橋（2010）による卒業論文の一部をもとに加筆修正したものである。

本研究の実施に当たり、ヒグマの生態調査中にヒグ

マの糞の発見、回収、保存に協力いただいた、浦幌ヒグマ調査会の皆さま、日本大学生物資源科学部森林動物学研究室および北海道大学ヒグマ研究グループの学生諸氏に感謝申し上げます。

引用文献

Aoi, T. 1985. Seasonal change in food habits of ezo brown bear (Ursus arctos yesoensis LYDEKKER) in northern Hokkaido. Research Bulletin of Teshio Experimental Forest, Hokkaido University, 42: 721-732.

青木千枝 . 2007. 北海道東部浦幌地域におけるヒグマのアリ食について . 日本大学生物資源科学部森林資源科学科森林動物学ゼミナール卒業論文 . 14pp.

Große, C. Kaczensky, P, & Knauer. F. 2003. Ants: A food source sought by Slovenian brown bears (Ursus arctos)? Canadian Journal of Zoology, 81: 1996-2005.

菱山真美 . 2009. ヒグマによるアリ採食の実態とヒグマの好むアリの営巣環境 . 日本大学生物資源科学部森林資源科学科森林動物学ゼミナール卒業論文 , 13pp.

伊藤正義 . 2017. 北海道におけるヒグマのアリ食：地域と時代による違い . 酪農学園大学農食環境学群環境共生学類卒業論文 , 54pp.

門崎允昭・犬飼哲夫 . 2000. 増補改訂版ヒグマ . 377pp. 北海道新聞社 , 札幌 .

川井信矢・堀繁久・河原正和・稲垣政志 . 2005. 日本産コガネムシ上科図説 第 1 巻食糞群 . 189pp. 六本脚 , 東京 .

岸本祐樹 . 2009. ヒグマが採食する昆虫相およびヒグマの糞に集まる昆虫相 . 日本大学生物資源科学部森林資源科学科森林動物学ゼミナール卒業論文 , 63pp.

小林由美・佐藤喜和 . 2012. 北海道東部浦幌地域におけるヒグマ (Ursus arctos) のアリ食 . 浦幌町立博物館紀要 , 12: 7-10.

桑原禎知・岡田秀明・山中正実 . 2001. ヒグマのゼミ食い：いったい誰が掘り始めたのか？ . Bears Japan, 2(2): 35-36.

Mattson, D.J. 2001. Myrmecophagy by Yellowstone grizzly bears. Canadian Journal of Zoology, 79: 779-793.

Mattson, D.J., Gillin, C.M., Benson, S. A. & Knight, R. R. 1991. Bear feeding activity at alpine insect aggregation sites in the Yellowstone ecosystem. Canadian Journal of Zoology, 69: 2430-2435.

Ohdachi, S. & Aoi, T. 1987. Food habits of brown bears in Hokkaido, Japan. International Conference of Bear Research and Management, 7: 215-220.

大原昌宏 . 1995. 小樽市長橋なえぼ地区昆虫相調査報告（9）-1992・1993 年度における調査概要 , および腐肉ベイトトラップにより採集された甲虫類について . 小樽市博物館紀要 , 8: 19-42.

大原昌宏 . 2006. ヒグマと昆虫 . 天野哲也・増田隆一・間野勉（編）, ヒグマ学入門 自然・文化・現代社会 . pp.19-21. 北海道大学出版会 , 札幌 .

Onoyama, K. 1988. Ants as prey of the Yezo brown bear Ursus arctos yesoensis, with considerations on its feeding habit. Research Bulletin of Obihiro University I, 15: 313-318.

佐藤喜和 . 2011. 採食生態 . 環境の変化への柔軟な反応 . 坪田敏男・山﨑晃司（編）. 日本のクマ：ヒグマとツキノワグマの生物学 . pp.37-58. 東京大学出版 , 東京 .

Sato, Y., Aoi, T., Kaji, K. & Takatsuki, S. 2004. Temporal changes in the population density and diet of brown bears in eastern Hokkaido, Japan. Mammal Study, 29: 47-53.

Sato, Y., Mano, T. & Takatsuki, S. 2000. Applicability of the point-frame method for quantitative evaluation of bear diet. Wildlife Society Bulletin, 28:311-316.

Sato, Y., Mano, T. & Takatsuki, S. 2005. Stomach contents of brown bears Ursus arctos in Hokkaido, Japan. Wildlife Biology, 11: 133-144.

Swenson, J. E., Jansson, A., Riig, R. & Sandegren, F. 1999. Bears and ants: myrmecophagy by brown bears in central Scandinavia. Canadian Journal of Zoology, 77:551-561.

髙橋慎二 . 2010. ヒグマが採食する昆虫相およびヒグマの糞に集まる昆虫相Ⅱ . 日本大学生物資源科学部森林資源科学科森林動物学ゼミナール卒業論文 , 32pp.

上野俊一・黒沢良彦・佐藤正考（編）. 1999. 原色日本甲虫図鑑 (Ⅱ). 8+514pp. 保育社 , 東京 .

山中正実・青井俊樹 . 1988. ヒグマ . 大泰司紀之・中川元（編）知床の動物 . pp.181-223. 北海道大学図書刊行会 , 札幌 .

矢野晶子 . 2010. ヒグマが採食するアリの利用可能度と防御行動 . 日本大学生物資源科学部森林資源科学科森林動物学ゼミナール卒業論文 , 11pp.

保田信紀 . 1992. サロベツ原野における地表性昆虫類群集 - 利尻島・礼文島・サロベツ原野昆虫相調査報告書 - . 層雲峡博物館研究報告 , 12: 31-57.

保田信紀・佐藤雅彦 . 1992. 礼文岳における地表性甲虫類の垂直分布 - 利尻島・礼文島・サロベツ原野昆虫相調査報告書 - . 利尻町立博物館年報 , 11: 11-25.

White Jr. D., Kendall, K. C. & Picton, H. D. 1998. Grizzly bear feeding activity at alpine army cutworm moth aggregation sites in northwest Montana. Canadian Journal of Zoology, 76: 221-227.

吉田康登氏採集の植物標本（２）

持田　誠 [1)]・持田直也 [2)]

Makoto Mochida & Naoya Mochida. 2017.
Herbarium specimens of YOSHIDA Yasuto Collection, 2.
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 17: 19-25.

はじめに

吉田康登氏は、現在、池田町清見ケ丘に建つ日本福音ルーテル池田教会の初代牧師を務めた人物である。戦後の集団帰農で関東地方から浦幌町へ移住し、万年地区に居住していたが、戦後の教会設立に際して、信徒に乞われて池田町へ転出した。

吉田氏は植物研究家として知られ、地域の植物採集と標本製作に取り組んでいた。また、教会設立に際しては押し花色紙を製作・販売して資金の足しにしていた。吉田氏の製作した植物標本は浦幌町立博物館に保存されており、これまでの保存分については標本目録を公開している（持田・加納 2013）。

2015 年に、浦幌町立博物館の前身である浦幌町郷土博物館として用いられていた建物から、新たに吉田康登氏の植物標本がみつかった。これらの標本は資料として登録された形跡が無かったことから、前回の報告（持田・加納 2013）に追加する形での標本目録を整備した。

標本の再発見の経緯

標本は、2015 年に旧浦幌町郷土博物館庁舎（図１）の２階からみつかった。発見場所は旧郷土博物館の化石資料展示室のガラスケース下にあった収納スペースで、「植物標本」と墨書きされた段ボール箱に収められていた（図２）。なお、このとき同時に、教材用に市販されている動物の液浸標本２点、頭骨１点もみつかった。

浦幌町郷土博物館は 1969（昭和 44）年 6 月 1 日に北海道 100 年、浦幌町 70 年を記念して建設された博物館で、「開拓記念物」「考古」「自然科学」「郷土資料」を主体に幅広い資料収集活動を続けていた（野沢 1972）。植物標本も収集の対象としており、吉田康登コレクションのほかにも、中川公郎コレクション、上浦幌小学校が購入した教材用植物標本などが収蔵されている。

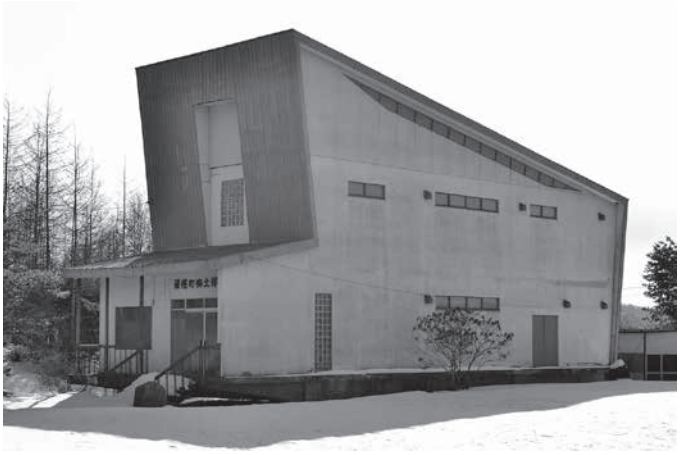


図１　浦幌町字東山の丘の上に建つ旧郷土博物館。
現在は閉鎖され、農具など大型資料を保管している

図２　植物標本の入っていた段ボール箱
水濡れの跡があるが、中の標本は無事だった。

1) 浦幌町立博物館　〒 089-5614　北海道十勝郡浦幌町字桜町 16-1
2) 浦幌町教育委員会社会教育係　〒 069-5614　北海道十勝郡浦幌町字桜町 15-5　中央公民館内

吉田康登コレクションについては、これまでに 108 点が登録されている。これに対して新たにみつかった標本は合計で 93 点であり、若干少ない（表 1）。

採集年代は、従来の 108 点が 1961（昭和 36）～ 1969（昭和 44）年であるのに対し、今回の 93 点は 1961（昭和 36）～ 1963（昭和 38）年で、大半が 1962（昭和 37）年であった。このことから、採集初期の時代の標本を後日、整理の上で納入したものと思われる。

標本登録上の疑問点

問題は、今回みつかった 93 点の標本がいつ納入され、なぜ登録されないまま、旧郷土博物館閉館後も新館へ移送されずに放置されていたかである。そこでまず、従来の 108 点の標本がいつ受け入れ・登録されているかを原簿を使って確認してみた。

その結果、受け入れ台帳、資料記録票（原簿）とも、一括して 1968（昭和 43）年 5 月 15 に受け入れ処理が実施され、即日登録されている事がわかった。なお、資料記録票に添付する資料写真の撮影年月日と資料記録票の作成年月日は 2001（平成 13）年 11 月で、数日間にわたり実施されている。

しかし、上述のとおり、これらの標本の中には 1969（昭和 44）年採集のものが含まれている事から、1968（昭和 43）年に受け入れ処理を実施したという事はあり得ない。浦幌町郷土博物館も現在の浦幌町立博物館も、資料の受け入れ順に番号を振り（受け入れ番号）、その番号をそのまま収蔵番号として活用している（旧郷土博物館の初期の時代には別な番号を与えていたが、その後、受け入れ番号と収蔵番号は同一とされている）。このため、108 点の標本にも「1968-●●●」という形で資料番号が与えられている。この結果、1969 年 5 月 10 日に豊頃町十弗で採集されているキンポウゲ科のニリンソウやフクジュソウなど、採集年月日より前の年代の資料番号が与えられている標本が数点含まれていた。

なぜこのような事が起こってしまったのかは、現在では確認のしようが無い。しかし、資料記録票の作成や写真の撮影が、新博物館へ移転後の 2001（平成 13）年になってから実施されている事から、実際にはかなり後年に受け入れをした標本群であるという可能性が高い。現在の浦幌町立博物館の開館は 2000（平成 12）年の年末である事から考えると、旧郷土博物館が閉館した昭和末期に寄贈されたのではないか。

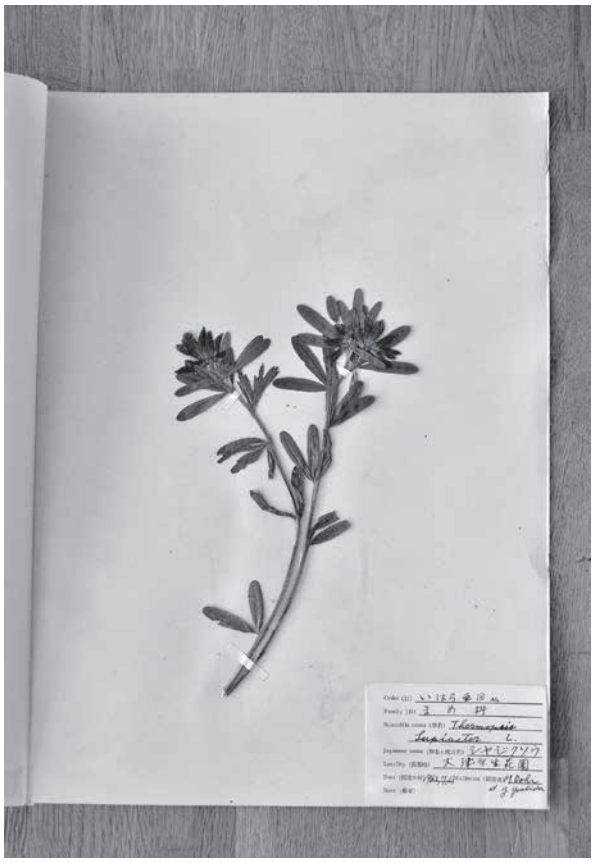


図 3　大津海岸で採集されたシャジクソウ

旧郷土博物館の閉館と新館への資料移転という混乱した時期にあって、資料の登録作業が遅れた事は容易に想像ができる。また、今回みつかった 93 点の標本は、この混乱のさなかに後から追加して納入された標本であり、適切な受け入れ処置がされないまま、新館へも引き継がれずに忘れられていたものと予想される。

今回みつかった 93 点の標本については、2016（平成 28）年にあらためて受け入れ・登録処理を実施した。そのため、収蔵番号は 2016-336 ～ 2016-428 を与えた（表 1）。

標本の概要・状態

新たにみつかった 93 点の標本については、以下のような特徴がみられる。

採集地は大半が十勝地方での採集で、そのうち大半が池田町内で採集されている。なお、前報では 108 点中 2 点のみであった浦幌町内での採集標本が、今回は 93 点中 5 点あり、範囲も万年、厚内、新吉野と、前回よりも範囲が広がっている。

採集者は大半が吉田氏単独によるものだが、一部

図４　破損・劣化の進んでいた標本
（アキノウナギツカミ）

の標本に m.dohi、A.Onishi の名がみえる。このうち、m.dohi は、当時、旭川営林署員であった土肥氏であることがわかっている（持田・加納 2013）。A.Ohnishi については、人物属性がはっきりしなかった。

採集植物は大半が普通種だが、1962 年 7 月 13 日に「大津原生花園」で採集されているマメ科のシャジクソウは貴重な記録だろう（図３）。現在、シャジクソウは十勝海岸でも南部の大樹町などで見られるが、大津海岸や豊北海岸では稀である。

アカネ科の「オウバノヨツバムグラ」とされた標本は果実期のもので、果実に明瞭な毛が認められ、エゾノヨツバムグラの誤同定と思われる。同様に、「エゾキヌタソウ」とされた標本も「ミヤマキヌタソウ」の誤同定であった。

日高山脈の固有種で、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧 IB 類に指定されているナデシコ科のカムイビランジは、標本ラベルの採集地欄に「植」と記されていることから、植栽品を標本にしたものと思われた。高山植物の山草栽培がまだ盛んだった時代であり、こうした種も栽培されていたのだろう。

標本はすべて台紙に固定され、手書きの標本ラベルも貼付されている。旧郷土博物館からの発見時に収納されていた段ボール箱は一部に水濡れの痕跡が認められたが、中の標本に浸水した痕跡は認められなかった。

しかし、箱内の上部にあった一部の標本は、カビや虫食いの被害にあって破損していた（図４）。これらは今後、修復を実施する予定である。

また、標本は二つ折りのジーナスカバー状の台紙に貼られたもの（図５）と、一般的な台紙に貼った上で、別の用紙をジーナスカバーのようにして被せてあるものの２通りがあった（図６）。ジーナスカバーの代用品としては、薄い上質紙が大半だったが、一部はカレンダーやポスターなど、印刷された用紙を用いているものがあった。

なかでも特徴的なのは、1962 年 6 月 12 日に池田町で採集されたクサレダマのカバーに用いられていた用紙である（図７）。これは 1967 年の日本ルーテル神学大学神学部の入学試験要領の青焼きコピーであった。吉田氏は、池田町のルーテル教会の牧師だった事から、教会で掲示していた神学校のポスターを、そのまま標本保存用のカバーに転用したのだろう。

少なくとも、このポスターの存在により、旧郷土博

図５　二つ折りの台紙に貼られた植物標本。標本の表面が保護されている。

図６　一般的な台紙に貼られた標本。別に用意された二つ折りの紙で挟まれ、保護されているものもある

物館へは 1967 年２月以降に納入されたものである事がわかる。採集年代と納入年代に開きがある事の、ひとつの証拠となる。

日本ルーテル神学大学は 1964（昭和 39）年に、ポスターに表記されているとおり、東京都中野区に開学した神学校である。その後、1969（昭和 44）年には三鷹市へ移転し、1996（平成 8）年には日本ルーテル学院大学と名称も変更されている。したがって、日本ルーテル神学大学時代の名と住所を残す、当時を反映した歴史資料的な意味もあると言えるだろう。

図７　標本の保護カバーとして用いられていた日本ルーテル神学大学神学部の入学試験要項

謝　辞

吉田康登氏の情報などについては、日本福音ルーテル池田教会の加納牧師はじめ教会の皆様から提供いただいた。深く感謝したい。

引用文献

持田誠・加納寛之．2013．吉田康登氏の植物標本．浦幌町立博物館紀要，13: 31-40.

野沢貞男．1972．『浦幌町郷土博物館報告』発刊のことば．浦幌町郷土博物館報告，1: 2.

滝田謙譲. 2001. 北海道植物図譜. 1452pp. 自費出版.

表1. 浦幌町立博物館所蔵「吉田康登採集植物標本」目録（追加分）

No.	収蔵番号	科名	学名＊	和名**	採集年月日	採集地	採集者名
シダ植物門							
1	**2016-359**	ヒカゲノカズラ科	*Lycopodium cryptomerinum* Maxim.	すぎらん	1961. 9. 21	阿寒	y, yoshida
種子植物門裸子植物亜門							
2	**2016-348**	ヒノキ科	*Thuja standishii* (Gordon) Carrière	クロベ（くろびねずこ）	1962. 11. 2	天城山	y, yoshida
種子植物門被子植物亜門双子葉植物綱古生花被亜綱（離弁花類）							
3	**2016-378**	ヤナギ科	*Salix miyabeana* Seemen subsp. *gilgiana* (Seemen) H.Ohashi	カワヤナギ	1962. 5. 27	池田町旭町	y, yoshida
4	**2016-354**	ヤナギ科	*Populus alba* L.	ハクヨウ（ギンドロ）	1962. 10. 1	池田町旭町	y, yoshida
5	**2016-401**	イラクサ科	*Pilea pumila* (L.) A.Gray	アオミズ	1962. 9. 8	池田町旭町	y, yoshida
6	**2016-344**	アサ科	*Cannabis sativa* L.	アサ	1962. 8. 15	池田町清見	y, yoshida
7	**2016-336**	アサ科	*Humulus lupulus* L. var. *cordifolius* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.	カラハナソウ	1962. 8. 4	池田町 旭町牧場	y, yoshida
8	**2016-364**	アサ科	*Humulus lupulus* L. var. *cordifolius* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.	カラハナソウ	1962. 9. 15	池田町 旭町牧場	y, yoshida
9	**2016-340**	タデ科	*Persicaria sagittata* (L.) H.Gross	アキノウナギズカミ	1962. 9. 22	池田町 旭町牧場	y, yoshida
10	**2016-349**	タデ科	*Persicaria longiseta* (Bruijn) Kitag.	イヌタデ	1962. 9. 15	池田町旭町	y, yoshida
11	**2016-411**	ナデシコ科	*Spergula arvensis* L. var. sativa (Boenn.) Mert. et W.D.J.Koch	オウツメクサ	1962. 6. 7	池田町清見	y, yoshida
12	**2016-383**	ナデシコ科	*Silene hidaka-alpina* (Miyabe et Tatew.) Ohwi et H.Ohashi	カムイビランジ	1962. 6. 25	植〔植栽〕	y, yoshida
13	**2016-427**	モクレン科	*Kadsura japonica* (L.) Dunal	さねかずら	1963. 1. 23	肥前島原深江	y, yoshida
14	**2016-428**	クスノキ科	*Cinnamomum camphora* (L.) J.Presl	くすのき	1963. 1. 23	肥前島原深江	y, yoshida
15	**2016-399**	キンポウゲ科	*Ranunculus franchetii* H.Boissieu	エゾキンポウゲ	1962. 5. 27	池田町利別	y, yoshida
16	**2016-417**	キンポウゲ科	*Caltha palustris* L.	エンコウソウ	1962. 5. 13	池田町 旭町牧場	y, yoshida
17	**2016-392**	キンポウゲ科	*Thalictrum aquilegifolium* L.	カラマツソウ	1962. 6. 1	池田町 旭町牧場	y, yoshida
18	**2016-362**	キンポウゲ科	*Anemone stolonifera* Maxim.	サンリンソウ	1962. 5. 13	池田町 旭町牧場	y, yoshida
19	**2016-410**	キンポウゲ科	*Anemone stolonifera* Maxim.	サンリンソウ	1962. 6. 1	池田町 旭町牧場	y, yoshida
20	**2016-397**	センリョウ科	*Chloranthus japonicus* Siebold	ヒトリシズカ	1962. 5. 13	池田町清見	y, yoshida
21	**2016-414**	センリョウ科	*Chloranthus japonicus* Siebold	ヒトリシズカ	1962. 6. 7	池田町清見	y, yoshida
22	**2016-412**	センリョウ科	*Chloranthus serratus* (Thunb.) Roem. et Schult.	フタリシズカ	1962. 6. 7	池田町清見	y, yoshida
23	**2016-396**	マタタビ科	*Actinidia polygama* (Siebold et Zucc.) Planch. ex Maxim.	マタタビ	1962. 6. 2	池田町清見	y, yoshida
24	**2016-405**	ケシ科	*Corydalis ambigua* Cham. et Schlecht.	エゾエンゴサク	1962. 5. 2	池田町旭町	y, yoshida
25	**2016-404**	ケシ科	*Chelidonium majus* L. subsp. *asiaticum* (Hara) Ohwi	クサノオウ	1962. 6. 12	池田町清見	y, yoshida
26	**2016-408**	ケシ科	*Corydalis incisa* (Thunb.) Pers.	ムラサキケマン	1962. 5. 20	池田町清見	y, yoshida
27	**2016-423**	アブラナ科	*Arabis hirsuta* (L.) Scop.	ヤマハタザオ	1962. 6. 7	池田町清見	y, yoshida
28	**2016-407**	ユキノシタ科	*Chrysosplenium ramosum* Maxim.	マルバネコノメソウ	1962. 5. 13	池田町清見	y, yoshida
29	**2016-356**	ユキノシタ科	*Hydrangea petiolaris* Siebold et Zucc.	ツルアジサイ	1962. 9. 18	定山渓	y, yoshida
30	**2016-413**	バラ科	*Potentilla sprengeliana* Lehm.	キジムシロ	1962. 5. 15	池田町旭町	y, yoshida

No.	収蔵番号	科名	学名＊	和名	採集年月日	採集地	採集者名
31	**2016-395**	バラ科	*Sanguisorba tenuifolia* Fisch. ex Link	ナガボノアカワレモコウ	1962. 8. 16	岩内仙峡	y, yoshida
32	**2016-374**	バラ科	*Spiraea media* F.W.Schmidt var. *sericea* (Turcz.) Regel ex Maxim.	エゾシモツケ	1962. 7. 2	池田町　旭町牧場	y, yoshida
33	**2016-406**	バラ科	*Sorbaria sorbifolia* (L.) A.Braun	ホザキナナカマド	1961. 8. 7	本別	y, yoshida
34	**2016-376**	バラ科	*Aruncus dioicus* (Walter) Fernald var. *kamtschaticus* (Maxim.) H.Hara	ヤマブキショウマ	1962. 7. 2	池田町　旭町牧場	y, yoshida
37	**2016-342**	バラ科	*Spiraea salicifolia* L.	ホザキシモツケ	1963. 8. 3	池田町旭町	y, yoshida
38	**2016-369**	バラ科	*Aruncus dioicus* (Walter) Fernald var. *kamtschaticus* (Maxim.) H.Hara	ヤマブキショウマ	1960. 7. 13	池田町　旭町牧場	y, yoshida
39	**2016-365**	バラ科	*Padus avium* Mill.	エゾノウワミズザクラ	1962. 5. 21	浦幌町万年	y, yoshida
41	**2016-337**	バラ科	*Spiraea prunifolia* Siebold et Zucc.	シジミバナ	1963. 6. 29	池田町旭町	y, yoshida
42	**2016-338**	バラ科	*Rosa nipponensis* Crep.	タカネバラ	1963. 6. 29	池田町旭町	y, yoshida
43	**2016-382**	バラ科	*Rosa rugosa* Thunb.	ハマナシ	1963. 6. 29	浦幌町厚内	y, yoshida
35	**2016-381**	マメ科	*Trifolium lupinaster* L.	シャジクソウ	1962. 7. 13	大津原生花園	m, dohi&y, yoshida
36	**2016-420**	マメ科	*Thermopsis lupinoides* (L.) Link	センダイハギ	1962. 7. 13	大津原生花園	y, yoshida
40	**2016-361**	マメ科	*Lespedeza bicolor* Turcz.	エゾヤマハギ	1960. 8. 25	池田町旭町	y, yoshida
44	**2016-370**	フウロソウ科	*Geranium erianthum* DC.	チシマフウロ	1962. 5. 21	浦幌町新吉野	y, yoshida
45	**2016-398**	フウロソウ科	*Geranium erianthum* DC.	チシマフウロ	1962. 5. 21	浦幌町万年	y, yoshida
46	**2016-418**	モチノキ科	*Ilex rugosa* F.Schmidt	ナガバツルツゲ	1961. 11. 15	アポイ山麓	y, yoshida
47	**2016-355**	ニシキギ科	*Euonymus alatus* (Thunb.) Siebold f. *striatus* (Thunb.) Makino	コマユミ	1962. 9. 18	定山渓	y, yoshida
48	**2016-389**	ニシキギ科	*Euonymus alatus* (Thunb.) Siebold	ニシキギ	1962. 7. 15	池田町旭町	y, yoshida
49	**2016-387**	スミレ科	*Viola acuminata* Ledeb.	エゾノタチツボスミレ	1962. 6. 7	池田町旭町	y, yoshida
50	**2016-373**	スミレ科	*Viola hirtipes* S.Moore	サクラスミレ	1962. 5. 19	池田町旭町	y, yoshida
51	**2016-416**	ミソハギ科	*Lythrum salicaria* L.	エゾミソハギ	1962. 7. 13	大津原生花園	y, yoshida
52	**2016-384**	アカバナ科	*Chamerion angustifolium* (L.) Holub	ヤナギラン	1962. 7. 13	豊頃村長節	m, dohi&y, yoshida
53	**2016-402**	セリ科	*Angelica genuflexa* Nutt. ex Torr. et A.Gray	エゾオウバセンキウ	1962. 9. 8	池田町　旭町牧場	y, yoshida
54	**2016-388**	セリ科	*Anthriscus sylvestris* (L.) Hoffm.	コジャク	1962. 6. 7	池田町清見	y, yoshida
55	**2016-391**	セリ科	*Osmorhiza aristata* (Thunb.) Rydb.	ヤブニンジン	1962. 6. 11	池田町旭町	y, yoshida
種子植物門被子植物亜門双子葉植物綱後生花被亜綱（合弁花類）							
56	**2016-339**	ツツジ科	*Leucothoe grayana* Maxim.	ハナヒリノキ	1962. 8. 16	岩内仙峡	y, yoshida
57	**2016-350**	ツツジ科	*Leucothoe grayana* Maxim.	ハナヒリノキ	1962. 9. 18	定山渓	y, yoshida
58	**2016-367**	ヤブコウジ科	Ardisia japonica (Thunb.) Blume	ヤブコウジ	1962. 10. 31	天城山	y, yoshida
59	**2016-380**	サクラソウ科	*Lysimachia thyrsiflora* L.	ヤナギトラノオ	1962. 6. 17	池田町　旭町牧場	y, yoshida
60	**2016-347**	リンドウ科	*Syringa reticulata* (Blume) H.Hara	ハシドイ	1963. 7. 6	池田町旭町	y, yoshida
61	**2016-403**	リンドウ科	*Syringa vulgaris* L.	ムラサキハシドイ	1962. 5. 21	池田町西一条	A, Onishi
62	**2016-426**	リンドウ科	*Ligustrum japonicum* Thunb.	ねずみもち（タマツバキ）	1963. 1. 23	肥前島原深江	y, yoshida
63	**2016-360**	リンドウ科	*Gentiana triflora* Pall. var. *japonica* (Kusn.) H.Hara	エゾリンドウ	1962. 8. 25	池田町清見	y, yoshida
64	**2016-351**	リンドウ科	*Swertia japonica* (Schult.) Makino	センブリ	1962. 10. 31	天城山	y, yoshida

No.	収蔵番号	科名	学名＊	和名	採集年月日	採集地	採集者名
65	**2016-424**	リンドウ科	*Tripterospermum trinervium* (Thunb.) H.Ohashi et H.Nakai	ツルリンドウ	1962. 10. 31	天城山	y, yoshida
66	**2016-377**	アカネ科	*Galium verum* L. subsp. *asiaticum* (Nakai) T.Yamaz. var. *trachycarpum* DC.	エゾカワラマツバ	1962. 7. 2	池田町　旭町牧場	y, yoshida
67	**2016-375**	アカネ科	*Galium nakaii* Kudo ex H.Hara	［ミヤマキヌタソウ］	1962. 7. 2	池田町　旭町牧場	y, yoshida
68	**2016-343**	アカネ科	*Galium kamtschaticum* Steller ex Roem. et Schult. var. *kamtschaticum*	［エゾノヨツバムグラ］	1962. 8. 16	岩内仙峡	y, yoshida
69	**2016-368**	シソ科	*Elsholtzia ciliata* (Thunb.) Hyl.	ナギナタコウジュ	1962. 9. 3	池田町旭町	y, yoshida
70	**2016-386**	シソ科	*Ajuga ciliata* Bunge var. *villosior* A.Gray ex Nakai	カイジンドウ	1962. 6. 12	池田町清見	y, yoshida
71	**2016-419**	ナス科	*Solanum megacarpum* Koidz.	オオマルバホロシ	1962. 7. 13	大津原生花園	m, dohi&y, yoshida
72	**2016-415**	ゴマノハグサ科	*Pedicularis resupinata* L. subsp. *oppositifolia* (Miq.) T.Yamaz.	シオガマギク	1962. 7. 13	大津原生花園	m, dohi&y, yoshida
73	**2016-425**	オオバコ科	*Plantago lanceolata* L.	ヘラオオバコ	1961. 10. 28	青森駅構内	y, yoshida
74	**2016-353**	スイカズラ科	*Viburnum wrightii* Miq.	ミヤマガマズミ	1962. 9. 18	定山渓	y, yoshida
75	**2016-346**	キク科	*Solidago virgaurea* L. subsp. *asiatica* Kitam.	アキノキリンソウ	1962. 8. 25	池田町清見	y, yoshida
76	**2016-357**	キク科	*Artemisia keiskeana* Miq.	イヌヨモギ	1962. 9. 15	池田町清見	y, yoshida
77	**2016-394**	キク科	*Parasenecio adenostyloides* (Franch. et Sav. ex Maxim.) H.Koyama	カニコウモリ	1962. 5. 13	池田町清見	y, yoshida
78	**2016-352**	キク科	*Ainsliaea apiculata* Sch.Bip.	キッコウハグマ	1962. 10. 31	天城山	y, yoshida
79	**2016-358**	キク科	*Pertya scandens* (Thunb.) Sch.Bip.	コウヤボウキ	1962. 10. 31	天城山	y, yoshida
80	**2016-372**	キク科	*Matricaria matricarioides* (Less.) Ced.Porter ex Britton	コシカギク	1962. 6. 25	池田町旭町	y, yoshida
81	**2016-341**	キク科	*Aster microcephalus* (Miq.) Franch. et Sav.	コンギク	1962. 9. 15	池田町旭町	y, yoshida
82	**2016-422**	キク科	*Tripleurospermum tetragonospermum* (F.Schmidt) Poped.	シカギク	1962. 7. 20	釧路	y, yoshida
83	**2016-345**	キク科	*Sonchus brachyotus* DC.	ハチジョウナ	1962. 10. 1	池田町旭町	y, yoshida
84	**2016-379**	キク科	*Ixeris repens* (L.) A.Gray	ハマニガナ	1962. 7. 15	大津原生花園	m, dohi&y, yoshida
85	**2016-366**	キク科	*Eupatorium makinoi* T.Kawahara et Yahara	ヒヨドリバナ	1962. 9. 8	池田町　旭町牧場	y, yoshida
86	**2016-363**	キク科	*Cirsium spicatum* (Maxim.) Matsum.	ヤマアザミ	1962. 8. 25	池田町　旭町牧場	y, yoshida
87	**2016-371**	キク科	*Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f. subsp. *margaritacea*	ヤマホウコ	1963. 9. 10	池田町清見	y, yoshida
種子植物門被子植物亜門単子葉植物綱							
88	**2016-390**	ユリ科	*Fritillaria camtschatcensis* (L.) Ker Gawl.	クロユリ	1962. 5. 18	浦幌	y, yoshida
89	**2016-409**	ユリ科	*Disporum smilacinum* A.Gray	チゴユリ	1962. 6. 12	池田町　旭町牧場	y, yoshida
90	**2016-393**	ユリ科	*Smilacina japonica* A.Gray	ユキザサ	1962. 6. 1	池田町旭町	y, yoshida
91	**2016-385**	アヤメ科	*Iris sanguinea* Hornem.	アヤメ	1962. 6. 10	池田町旭町	y, yoshida
92	**2016-421**	カヤツリグサ科	*Carex kobomugi* Ohwi	コウボウムギ	1962. 7. 13	大津原生花園	m, dohi&y, yoshida
93	**2016-400**	カヤツリグサ科	*Carex siderosticta* Hance	タガネソウ	1962. 6. 25	池田町旭町	y, yoshida

＊ 和名と採集年月日、採集地はラベル表記をそのまま転記したが、科名、学名は主に滝田(2001)の表記に従い、新エングラー体系で一般的な表記へ修正した。再同定結果は和名を[ ]で括って示した。
＊＊ 標本レベルでは和名表記に平仮名と片仮名が混在しているが、本表ではラベルの表記のままとした。

第五一六號

大正十五年一月六日

十勝郡川流布尋常小学校長

北海道十勝郡公立川流布尋常小學校長印

決裁印（欄外）

浦幌村長　殿

完結票（欄外）

私事旅行願提出之件

別紙ノ通リ當校代用教員私事旅行願提出致し候条□□進達方御取計相成度候也

（欄外）「經由□三付可然□一□　一月七日」

決済印

村長	首席	合議	主任
㊞	㊞		㊞

完結票

村長	㊞
首席	㊞
主任	㊞
施行濟	
完結	

枠は朱欄外

「大正拾五年壹月七日」（青スタンプ）㊞

第（朱）八（黒）號（朱）

私事旅行願　㊞

「受付印有」（紫スタンプ）

今回家事上ノ都合ニヨリ本月十二日ヨリ仝三十一日マテ往復二十間ノ豫定ヲ以テ小樽市砂留町廿七番地永井方桑原芳夫宅マテ私事旅行致度候条御許可相成度此段願候也

十勝郡川流布尋常小学校

代用教員　桑原　キヨ　㊞

大正十五年一月六日

河西支廳長　那須　正夫　殿

北海道十勝郡浦幌村長印

多く或は團体にしてその翻刻を願ひ出るもの個人として拝戴の道あり此を伺ひ出る者等その数少なからざりしか故に宮内省にては今回内務省神社局にその御蔵版を貸附してこの書の發行議許セリ茲に於て神社局は「神にからの道」普及会議起さし□今や初發て世上一般に読書の頒布を見るに至りたるは洵に感激に堪さる所なり茲に進講の陪聴を差し許さりしたる栄光を想ひつ、敢えて本書出版に關する經題を一言すと云爾

大正十四年十月

「神なからの道」刊行ニ就て

皇后陛下敬神の御心深くましまして秀推の宮に貴般の社に□其の他の社々に御参拝遊ばさる、なと洵に欽仰掲く能ハさる所なり陛下大正十三年春夏の頃東京帝国大学教授筧克彦博士を召して「神なからの道」を進講せし□らこ御聴講八回痛く御心にかなわせられ今回之か講演□□を上□□セし□給いて全国各官國弊社に御寄贈遊はさりしくことは國民の當に感奮興起すへきことに属す

熟々、我現代の世想を通観するに思想界は混沌として人心動くも□□ハ危□編僻に添らんとす之か国救は一に我か国体観念の明暢に俟たさるべ可らす吾人は此の際陛下の御思召越奏戴し廣く推神の大道を宣布するの必要切なるヲ思ふ

内務省付宮内当局の諒解ヲ経茲に本書を公刊し以て国民教化の資に寄與せんとす於是吾人同志相諮り内務當局と協力し本書の普及徹底を期すへく「神なからの道」普及会ヲ組織せり本会は因より営利を目的とするものにあらさるが故に之□か提供は実費を以てす此の様に於ける本書を汎く頒つことを得バ独り本会の目的を達成するのみにあらす又以て国家社会に貢献するの尠からる確信す江湖諸賢冀くハ此の擧を賛成同好知人の間に推奨せられんことを

大正十四年九月

「神なからの道」　普及会

神宮本齋会長　今泉定介

内勤書記官　池田清

全国神職会常勤理事　小原克麿

宮内省御用掛　伯爵　二荒芳徳

内勤事務官　呉立収

発起人

神なからの道　頒布規定

一、本書の体裁　菊版「ポプリン」表紙サック附○皇后陛下御眞筆「オフセット」印刷シタル御歌二枚○十二ポイント活字三十一字十三行七四○余頁○「オフセット」色刷六○余図○巻末御歌所員ノ歌数員

一、本書ハ印刷実費壹部金弐円八拾銭（外送料要ス）ヲ以テ希望者ニ頒ツ希望ノ向ハ部数送先ヲ明記シ料金及送料ヲ添付シ本会宛申込アリタシ

一、申込期限　大正十四年十一月三十日限

一、刊行期日　大正十五年　一月二十日

申込順ニ送本ス

一、送料

東京市内　金六銭　壹灣、樺太　金四十銭

壹部ニ付

地方　金十八銭　關東庁、朝鮮　金五十二銭

一、申込ハ振替口座東京七三二五一番ヲ利用セラル、ヲ使□トス

「神ながらの道」及教育参考資料購入ノ件

本月七日附浦第三三二八及浦第三三二九號ヲ以テ御照会相成候標記ノ件先ノ通リ購入仕リ度此段及申込候也

神ながらの道　壹　部
教育参考資料　壹　部

大正十四年一一月六日發議　大正〃年〃月七日議決　大正〃年〃月七日發送㊞　浄書　校合

村長　㊞　首席　合議　主任　發議者　㊞

番號　浦第三三二八號　發信者　「村長」(加筆)

宛名　各小学校長、特別教授場、各青年團、処女会　宛

件名　「神ながらの道」普及ニ關スル件

曩ニ
皇后陛下ヨリ神宮並官國弊社ニ御寄贈ニ係ル「神ながらの道」ヲ複製シ左記頒布規定ニ依リ之カ普及ヲ図ルコト、相成候趣ヲ以テ此ノ筋ヨリ照會ノ次第モ有之候處右ハ國民教化上極メテ機宜ヲ得タル企画ト被存候ニ付テハ一般ニ普及方御配意ノ上所要部数取纏メ来ル十二日迄ニ当役場ニ御申込相成度候也

「学校長ニ対シ」(朱加筆)追而学校備品トシテ購入スルハ乍遺憾經費ノ都合上不能ニ付御了知相成度申添候也

神ながらの道　頒布規定
支廳ヨリ来書通リ謄写ノ事

教第一九七〇號　㊞

「受付印有」(紫スタンプ)

㊞

大正十四年十一月二日

河西支廳長　那須　正夫

各町村長　殿

「神ながらの道」普及ニ關スル件

曩キニ皇后陛下ヨリ神宮並官國弊社ニ御寄贈ニ係ル「神ながらの道」ノ複製普及ニ關シ別紙ノ趣旨要領ニ依リ之カ普及ヲ図ルコト、相成候趣ヲ以テ其筋ヨリ照会ノ次第モ有之候処右ハ国民教化上極メテ機宜ヲ得タル企画ト被存候ニ付貴「管内貴市」(削除)「部」(加筆)内）官公衛学校、社寺其他公私團体等普及方御配意ノ上所要部数取纏メ十一月十五日迄ニ御回報相成度

「神ながらの道」頒布ニ就いて

宮内省御用掛伯爵　二荒　芳徳謹誠

皇后陛下には豫てより敬神の御念慮厚く渡らせられ理想信念の御討究に御心を潜□させれ殊に皇内神典の御造詣深くその御実修を重ねさせ給へること洵に有り難き極みなるか雲上の御事とて従来廣く江湖の拝聴せさりし所なり

然るに大正三、四年の頃東京帝國大学教授法学博士筧克彦氏か古神道ニ就いて研究深き由上聞に達しその著書をも御覧あらせウ□ざるか時移りて大正十三年二月の末より同五月初に亘る間「神ながらの道」と云ふ題にして斯道の大要を聞こし召されたり次いていとも畏き思召を以てその御進講し奉れる所を特別の装幀に作らしめ克っ官國弊社ニ御寄贈あらせ給ひ又廣く側近者に拝読せし□給ふやう仰セ出さりし下賜ありたる事は既に世上の悉知する所なり、これを聞き及ひたる國民中その書の拝読を熱望するもの頗る

一、送　料

東京市内　金　六錢　壹　灣、樺太　金　四十錢

壹部ニ付

地　方　金十八錢　關東廳、朝鮮　金五十五錢

一、申込ハ振替口座東京七三二五一番ヲ利用セラル、ヲ便宜トス

神ながらの道普及會
事務所東京市外下渋谷
皇典講究所内
電話青山五七八五番　五七八七番
振替東京七三二五一番

申　込　書

一、神ながらの道　部

料金
送料
計

右送本送成度料金添付申込候也

送本先
氏名
神ながらの道普及會　御中

大正十四年十二月二五日發議　大正〃年〃月7日議決　「大正拾四年十二月廿五日」（紫スタンプ）發送㊞　浄書　校合

村長　㊞　首席　合議　主任　發議者　㊞

番號　浦第三三二八號　發信者　「村長」（加筆）

宛名　河西支廳長　宛

件名　「神ながらの道」配本方ノ件

客月二日附教第一九七〇號ヲ以テ御照會有之候標題ノ件参部送本方御取計送成度申込候也

申　込　調

貴老路處女會　壹　部
留真小学校　壹　部
中　村　茂　壹　部

第六九号

大正十四年十一月十二日

貴老路尋常小学校長　小林　朔吉

浦幌村長　石原　重方　殿

「受付印有」（紫スタンプ）

北海道十勝郡公立貴老路尋常小學校長印

「神ながらの道」ニ干スル件

浦第三三二八号ニテ御照會ノ本件貴老路処女會ニ於デ壹部希望ノ由ニ付此段申込候也

第三八八號　㊞

大正十四年十一月十一日

留真尋常小學校長　花見　八百三

「受付印有」（紫スタンプ）

北海道十勝郡留真尋常小學校長印

浦幌村長　石原　重方　殿

大正十四年十一月三日　㊞「受付印有」（紫スタンプ）

河西支廳長　那須　正夫

各町村長　殿

文部省普通学務局ヨリ今般全道教職員諸氏ノ参考ニ資スル為メ本省開設第三十七回視学講習会ニ於ケル左記講演ヲ速記シ講師ノ検閲ヲ経テ帝国地方行政学令（東京市京橋区）ヲシテ発行セシムル事ニ相成候就ハ貴部内関係者ヘ周知方同局ヨリ依頼越ニ付可然御配慮ノ上希望ノ向ハ当廳迄申込マル、様致度右御依頼迄

記

一、本邦教育の精神　文部次官　松浦鎮次郎

二、教育ノ新思潮と批判　東京高等師範学校文学博士　大瀬甚太郎

三、普通教育ノ実際　文部省監学官　森岡常藏

四、衆議院議員選挙法ノ要旨　内務事務官　坂千秋

定價ハ一部金壱円　送料金拾四銭

追テ貴役場ニ於テ便宜取纏メ當方ヘ御申込相成度

完（欄外）

結

票

「申込期間經過ニ付（青インク加筆）

此侭□□□□」

浦幌村役場

教育係　御中

完結票

村長	㊞
首席	㊞
主任	㊞
施行濟	
完結	

枠は朱欄外

第（朱）七（黒）號（朱）

教育係

神なから

の道　頒布規定

菊版【ボブリン】表紙サック附○皇后陛下御眞筆ヲ【オフセット】印刷シタル一、御歌二枚○十二ポイント活字三十一字詰十三行七四○餘頁○【オフセット】色刷六○餘圓○巻末ニ御歌竝御歌所員ノ歌數頁

本書ノ体裁

一、本書ハ印刷實費壹部金貳圓八拾錢【外ニ送料ヲ要ス】ヲ以テ希望者ニ頒ツ

一、希望ノ向ハ部數、送先ヲ明記シ料金及送料ヲ添付シ本會宛申込マダタシ

一、申込期限　大正十四年十一月三十日限

一、刊行期日　大正十五年　一月二十日

申込順ニ送本ス

神なからノ道御申込相成處道廳申込期限ハ已ニ經過ニ有之別紙□□御送付候条直接御申込可能ト存候　㊞

十一月廿一日　河西支廳

枠は朱欄外

第(朱)六(黒)號(朱)

大正十四年十二月二五日發議　大正〃年〃月〃日議決（紫スタンプ）「大正拾四年三月廿五日」發送　浄書　校合

村長　㊞　首席　合議　主任　發議者　㊞

番號　浦第三三二九號　發信者「村長」(加筆)

宛名　河西支廳長　宛

件名　教育參考資料ノ件

客月三日付御照会相成候第三十七回視学講習會ニ於ケル講演集四部入用ニ付配本方御取扱相成度申込候也

申込調

吉野小学校　壱部

貴老路小学校　壱部

留真小学校　壱部

山田秀雅　壱部

大正十四年十一月十三日

吉野尋常小学校長　塩淵　一

浦幌村長　石原　重方　殿

「受付印有」（紫スタンプ）

北海道十勝郡公立吉野尋常小學校長印

教育參考資料ニ關スル件

過般御通知ニ接シ申候教育參考資料当校ニ於テモ一部入用ニ付御手数ナガラ御申込相成度候也

第七〇号　㊞

大正十四年十一月十二日

貴老路尋常小学校長　小林　朔吉

浦幌村長　石原　重方　殿

「受付印有」（紫スタンプ）

北海道十勝郡公立貴老路尋常小學校長印

教育參考資料刊行ニ干スル件

去ル七日附浦第三、三二九号ニテ御照会ノ本件左記及回答候也

一、第三十七回視学講習会ニ於ケル講習速記　壹部

大正十四年一一月六日發議　大正〃年〃月7日議決　大正〃年〃月7日發送　浄書㊞　校合

村長　㊞　首席　㊞　合議　主任　發議者　㊞

番號　浦第三、三二九號　發信者「村長」(加筆)

宛名　各学校長　宛

件名　教育參考資料刊行ニ關スル件

今般教職員講義ノ参考ニ資スル為メ文部省開設第三十七回視学講習会ニ於ケル左記講演ヲ速記シ講師ノ検閲ヲ經テ發行相成候ニ付テハ各位ニ周知方其筋ヨリ依頼越候条御希望ノ向ハ当役場迄至急申込相成度候

追而經費ノ都合上学校備品トシテ購入スルハ不可能ニ付御了知相成度申添候

記

支廳ヨリ来書ノ左記　追テ書ヲ除ク全部

決裁印（欄外）

「浦第三、八〇一號」（加筆）　㊞

教第二、三六一號

「十二月二十五日」（加筆）　㊞

大正十四年十二月二十一日

「受付印有」（紫スタンプ）　㊞

「村長」（加筆）

河西支廳長　那須　正夫

完結票（欄外）

「各小学校長　殿」（加筆）

各町村長　殿

小學校教員検定願添付履歴書ノ件

小學校教員及幼稚園保姆検定（無試験検定）出願ノ場合ハ小學校教員及幼稚園保姆検定細則第二号書式ニ據ル履歴書添付スヘキニ住々違式ノモノ有之照復其ノ繁ニ堪ヘス候條尓今検定出願ノ場合ハ規定ノ書式ニヨリ提出相成候様（貴部内各校ニ周知方御取計相成度此段及照会候也）此度旨其ノ筋候旨ヨリ通牒有之候条御了知相成度及移牒候也

決済印

村長	首席	合議	主任
㊞			㊞

完結票

村長	㊞
首席	㊞
主任	㊞
施行済	
完結	

枠は朱欄外

第（朱）五（黒）號（朱）

浦第三、三二九號

（受付印有））

大正十四年十二月二十五日　㊞

浦幌村長　石原　重方

河西支廳長　那須　正夫　殿

北海道十勝郡浦幌村長印

下部に付箋有

完結票（欄外）

教育参考資料ノ件

客月三日付御照会相成候第三十七回視学講習会ニ於ル講演資料四部入用ニ付配本方御取計相成度申込候也

下部付箋文

「期限後ニ付直接発行所へ御注文相成致度」

完結票

村長	㊞
首席	㊞
主任	㊞
施行済	
完結	

（欄外加筆）「申込期限経過ニ付此侭完結□一□」

教第二、三五一號　㊞

大正十四年十二月二十一日　河西支廳長　那須　正夫　㊞

「受付印有」（紫スタンプ）　㊞

各町村長　殿

育英事業ニ關スル調査ノ件

標記ノ件調査上必要有之候趣ヲ以テ其ノ筋ヨリ照会越候條貴部内團体及個人ニ於テ育英事業ニ關スル施設ヲ講スルモノニ付左記事項御取調ノ上本月二十八日迄ニ当廳ニ到達スル様御回報相成度

左　記

育英事業ニ關スル調査事項

育英事業施設ノ名称	同上事務所々在地	同上代表者氏名	同上ノ有スル資産額

追テ右施設ニ關スル参考ノ印刷物アラハ添付ノコト

尚右ニ關シ施設無之場合ハ其ノ旨御回報相成度為念申添ヘ候

大正十四年十二月二五日發議　大正〃年〃月〃日議決「大正拾四年三月廿五日」（紫スタンプ）發送㊞　浄書㊞　校合㊞

村長　㊞　首席　合議　主任　發議者　㊞

番号　浦第三、七一三號　発信者　「村長」（村長）

宛名　川上尋常小学校長　宛

件名　講習會出席旅費支出ニ干スル件

完（欄外）

十二月十四日付ヲ以テ旭川市ニ於テ開催セラル、体育遊技講習會出席特別旅費支出方御請求相成候處經費ノ都合［支出兼相成］（削除）「支障有之」（加筆）候條御了承有之度別紙返戻［此段及回答］（削除）候也

結票

（出張命令申請書返付ノ事）

完結票

村長	㊞
首席	㊞
主任	㊞
施行濟	
完結	

枠は朱欄外

第（朱）四（黒）號（朱）

大正十四年十二月十四日　㊞

「受付印有」（紫スタンプ）

川上尋常小学校長　蓬田　新助

浦幌村長　石原　重方　殿

北海道十勝郡公立川上尋常小學校長印

講習会出席旅費支出ニ干スル件

当職儀大正十五年一月四日ヨリ八日迄五日間旭川廳立女学校ニ関係ノ体育遊技講習ヘ入学研究致度希望ニテ過般本校研究会関係ノ際出會ヲ見合セ居候次第此際旭川講習會出席ニ特別旅費支給相成度別紙出張命令申請候條貴職ノ同意ヲ要スル件ニ付旅費支出同意ノ旨添付御送達相成度此段御請求候也

教第二、三六三號　㊞

大正十四年十二月二十四日　㊞

河西支廳長　那須　正夫　㊞

「浦幌」（加筆）　殿

割印（欄外）

市町村義務教育費国庫負担法第三條後段ニ依ル大正十四年度交付金交付ノ件

完（欄外）

結票

市町村義務教育費国庫負担法第三條後段ニ依ル大正十四年度き部内ニ対スル交付金額左記ノ通リ決定相成候旨其ノ筋ヨリ通牒有之候ニ付後承知相成度此段及通牒候也

追テ金券ハ其ノ筋ヨリ直接貴町村ニ対シ交付可相成候條後了知相成度申添ヘ候

左記

枠は朱欄外

第（朱）二（黒）號（朱）

法第三条後段ニ依ル大正十四年度市町村交付金配当金

期別交付金額		配當金額
十一月分	一二五三円	二五〇六
	四一〇	八二〇
二月分	一二五三円	
	四一〇	

完結票

村長	㊞
首席	㊞
主任	㊞
施行濟	
完結	

大正十四年十二月二四日發議　大正〃年〃月〃日議決　大正14年12月24日發送　浄書㊞　校合㊞

村長　㊞　首席　合議　主任　發議者　㊞

番號　浦第三、七八一號　發信者　「村長」（加筆）

宛名　河西支廳長　宛

件名　育英事業ニ關スル調査ノ件

本月二十一日附教第二三五一號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件該当事項無シ候条此段及御回答候也

完（欄外）

結票

枠は朱欄外

「第（朱）三（黒）號（朱）」

完結票

村長	㊞
首席	㊞
主任	㊞
施行濟	
完結	

浦幌町立博物館紀要　第17号　2017年3月

資料紹介

大正十五年 昭和元年 教育雑件〔その二〕

浦幌村役場

三浦直春 解読

本報は、浦幌町立博物館所蔵の「大正十五年　昭和元年　教育雑件」（浦幌村役場）簿冊に綴られた各文書を翻刻したものである（図1）。各文書の内容については、冒頭に目録が綴られており、紀要第16号（2016年発行）に掲載してある。

各文書については、紀要に文書毎に分割して掲載している。なお、掲載の順序は、原則として「教育雑件」に綴られている順序とする。

翻刻は、浦幌町立博物館ボランティアの三浦直春が担当した。

※原資料は浦幌町立博物館で収蔵していますが、資料の劣化防止などのため、展示公開はしていません。調査・研究上の理由で必要な場合には、所定の手続きにより閲覧する事が可能です。原資料の閲覧が必要な場合は、博物館までお問合せ下さい。

〔浦幌町立博物館学芸員〕

図1　大正十五年　昭和元年　教育雑件（浦幌村役場）

投稿要領・執筆要領

浦幌町立博物館では、『浦幌町立博物館紀要』への投稿者を募っています。投稿範囲は、浦幌・十勝並びに北海道を含む北方圏に関する論文、短報、資料紹介、新産地情報、調査・観察記録などです。

投稿は随時受け付けておりますので、投稿希望の方は、当館へご連絡下さい。

投稿者への別刷りは、50 部までは無料です。それ以上の印刷については著者負担とします。

なお、投稿原稿は紀要に掲載後、インターネット上で全文を公開します。投稿にあたっては、電子公開に関する同意を前提とさせて頂きます。

執筆にあたっては、以下の投稿要領・執筆要領を参照の上、原稿を作成ください。

1　投稿要領

＜提出方法＞

原稿は手書きまたはパソコンで受け付けます。投稿の際は、別紙に氏名・タイトル・連絡先を明記して下さい。

手書き原稿の場合は、縦書き・横書きのいずれも 400 字詰め原稿用紙を使用して下さい。

パソコン原稿の場合は、テキスト形式もしくは MS-Word 形式で保存したデータを、打ち出し原稿と共にお送り下さい。

データでの提出は、USB メモリもしくは CD-R で送付下さい。電子メールでの提出にあたっては、投稿用のメールアドレスを別途指示しますので、事前にご連絡ください（博物館の代表アドレスでは受け取れませんのでご注意ください。）

原稿は「紀要原稿在中」と赤書きの上、下記の浦幌町立博物館宛に提出ください。

〒 089-5614
北海道十勝郡浦幌町字桜町 16-1　浦幌町立博物館
電話：015-576-2009

2　執筆要領

＜言語＞

本文は和文に限ります。ただし、タイトル、氏名、所属には英語表記を御用意ください。また、英文アブストラクトを付ける事もできます。

学名、欧文用語および数字は半角文字で記し、句読点はそれぞれテン全角（、）および全角マル（。）とします。

＜引用文献＞

文献は、原則として本文中に引用した文献のみをとりあげ、和文、欧文を含めて著者名のアルファベット順に配列して下さい。

本文中での引用は（持田・加藤 2001a; 持田 2002）、持田ほか（2001）、(Mochida & Kato 1995, 2001b, c)、Mochida et al. (1997) を原則とします。なお、縦書きの場合は、原則として漢数字で表記下さい。

（例）持田誠（二〇一五a）

下記の表記例を参考にして下さい。

a．論文の場合は、著者名．発行年．表題．掲載雑誌名巻（号）：ページ．と表記する。

（例）上赤博文．1995．田手川の植物群落と植物相．佐賀自然史研究1(1)：5-16.

b．単行本の場合は、著者名．発行年．書名．ページ数．発行所，発行地．と表記する。

（例）伊藤秀三．1994．島の植物誌．246pp．講談社，東京.

c．単行本（分担執筆）の一部を引用する場合は，著者名．発行年．章名．本の編者名，書名．章のページ．発行所，発行地．とする。

（例）長田芳和．1997．ニッポンバラタナゴ．長田芳和・細谷和海（編），日本の希少淡水魚の現状と系統保存―よみがえれ日本産淡水魚―．pp.76-85. 緑書房，東京.

＜脚注＞

脚注は本文末にまとめて記述します。表記は（註 1）の形式とします。本文中では下記のとおり表記して下さい。

（例）・・・と考えられている（註 1 ）。

＜図表と説明文＞

図表番号は写真も含めて図 1、表 1 とします。

図版、写真、表は、本文へ貼り付けず、1 点ずつ別途お送り下さい。また、図版データは JPG で、表データはエクセルの形式で提出願います。

図は図表、図版とも完全原稿とし、余白または裏に著者名，番号，天地を明記して下さい。また、本文の打ち出し原稿の右余白に図の挿入位置を書き込んで下さい。ただし図版の説明文（キャプション）は図版にはめこまず、

図表番号と説明文を別紙 A4 用紙に記入して下さい。図表の説明文には英文を併記することができます。

（2016 年 3 月制定）

浦幌町立博物館紀要　第17号

発　行　日　　2017年3月31日

編集・発行　　浦幌町立博物館
〒089-5614　北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地１
電話　015-576-2009　　FAX. 015-576-2452

印　刷　所　　大同出版紙業株式会社
〒080-0017　北海道帯広市西７条南６丁目２番地
電話　0155-23-5107　　FAX. 0155-23-9032